

第3回環境被害に関する国際フォーラム

セッション2 問題解決に向けて

生活化学物質の居間襲撃－韓国加湿器殺菌剤惨事

チェ イェヨン*

大韓民国政府機関社会的惨事特別調査委員会副委員長

自己紹介と2006年国際フォーラムの経験

お会いできてうれしいです。韓国から来ましたチェ イェヨンと申します。

私は元々、市民運動の環境団体の活動家でしたが、加湿器殺菌剤事件を契機に、政府機関に、1年あるいは2年という期間を区切った特別公務員として、社会的惨事調査委員会で働いています。普段は、ジャンパーに運動靴という格好で来るのですが、今日は背広を着てきました。

2006年9月の最初の水俣での国際フォーラムに参加しました。1972年のストックホルム会議に参加されて、水俣病50周年の国際フォーラムにも参加されていらっしゃいました、水俣病患者の浜元さんにお会いしました。現在は、病院に入院されていると聞いています。

当時、プログラムにはなかったんですけども、このような横断幕を作って、参加者有志で、チッソ工場前で、デモンストレーションを行いました。その時、国際フォーラムには、ポパール惨事の当事者も参加され、10を超える国の方々が、参加されました。その時、地方の新聞（熊日）が報道した内容ですけど、私がそこに写っています（写真1）。

この間、約13年間、いろいろな変化がありました。水俣病については、先程報告もありましたが、私が、水俣病患者の友というように考えている原田先生が亡くなりました。最高裁の判決も出ました。水銀条約の発効もありました。

先程、少し質問も出ましたけれども、アスベスト問題が、日本も含めて、国際社会で広



写真1 第1回国際フォーラムでのチッソ水俣工場前の抗議活動を伝える新聞

*大韓民国政府機関「社会的惨事特別調査委員会」副委員長及び加湿器殺菌剤惨事真相究明小委員長

く社会問題化し、話題となりました。それで、私は韓国でアスベスト問題に取り組んできました。

アジアにおいては、国境を越えた大気汚染問題が深刻化しています。韓国でも、日常的にPM2.5の注意報が出されています。

2011年3月には、福島原発事故（東日本大震災の津波による福島第一原発事故）が発生し、同じ年、韓国で加湿器殺菌剤惨事が発生しました。

まだ詳しくアナウンスされていませんが、今年WHOのアジア太平洋環境保健センター（環境保健を専門に扱うWHOの機関）がソウルに設置される予定です。このWHOのアジアセンター設立が、今日、我々が議論しているテーマの解決に役立つことを希望しています。

韓国における加湿器殺菌剤惨事の概要

先程、被害者の方から、殺菌剤事件の話がありましたが、少し私も補足します。

現在まで知られているところでは、世界的には韓国だけで、加湿器殺菌剤が大量に生産され、使用され、そして被害者が出ています。

それ以外には、私は、日本の大阪地域で、加湿器の水タンクの中に入れて使用する殺菌剤が販売されているのを確認しました。その成分の内容は、韓国で事件になったものと違いますが、注意しなければいけません。このような物は販売中止にしなければいけないと思います。

加湿器を使う国は多いと思いますが、加湿器の水を捨てて、その中を洗うために使うというのが、加湿器殺菌剤ですが、ここで問題になったのは、加湿器の水のタンクの中に、水と一緒に殺菌剤を入れて使用するということです。

原因物質として、PHMG、PGH、CMIT/MIT、BK、というのが殺菌剤の成分なのですが、これはアメリカでは農薬に分類されています。1994年に初めて開発され、2011年までの18年間に、43の製品が開発・販売され、1,000万個近く販売されました。その当時は、結婚して子供が出来たら、冬の時期は加湿器を使う、そして、加湿器殺菌剤も使うというのが当たり前のことでした。

使用者は、ちょっと幅は大きいですが、400万から1,000万人と推算しています。韓国の人口が5,000万人ですから、大変な数の使用が行われました。健康被害者は、少なくとも50万人と推算しています。現在までの被害届出者は、6,248名。その中で22パーセント、1,384人が死亡しています。その中の1,000人にも及ばない人たちだけを、政府が被害者として認定しました。

このような製品を誰が作ったかという点、名もない会社ではなく、SK、ロッテ、LG、サムスンといった、韓国を代表する、世界的にも知られた企業が作りました。韓国企業のみならず、英国のReckitt Benckiser、TESCO、ドイツのHenkelと名の知られた企業も製造しました。

被害は、18年間全く分からず、2011年4月に大学病院に妊婦7人が原因不明の肺炎で入院しました。その7人のうち4人が死亡するという事件が、政府に届けられ、疫学調査が行われ、その結果、「加湿器殺菌剤が原因である」という結果が出ました。

先程説明しましたが、原因が明らかになった後、6年余り、被害調査もせずに放置状態ありましたが、2016年の検察調査で大きく社会問題化し、15人が刑事処罰を受け、現在11人が収監されています。

2016年の末から2017年の初めにかけて、韓国では、キャンドル革命が起こり、政権が交代しました。その後、2017年に、大統領が謝罪し、被害救済と真相究明の2つの特別法が制定され、現在進行中です。

被害状況と原因究明

ちょっと、複雑なのですが、1994年に製品が開発・製造・販売され、最初の死亡者は95年に出ているということがわかりました。2011年に社会問題化するまでの18年間、分からずしていました。2006年にも、原因不明の小児の死亡が発生しましたが、調査されませんでした。2011年に、死亡原因がはっきりしたのですが、被害対策は行われないうまま、2016年までほったらかしにされるという状態が続きました。

製品名を出しますが、日本語訳できていないのですが、94年から始まって、毎年、1つ2つ、新製品が開発・販売されるという中、2005年からは、毎年4つ5つの新製品が販売され、たくさん売られ、消費者も買い求めるという状態が続きました。

2011年、政府の疫学調査により原因が分かり、販売中止となり、その後は売られておりません。しかし、政府が、販売中止にした後も、製品名をしっかりと公表しなかった、あるいは強制回収しなかったために、その後も被害者は少しずつ現れてきています。

これが製品ですけれども（写真2）、ほとんど液状で、1つだけ丸い固形のものがありますが、今はこの加湿器殺菌剤というものを韓国では売られていませんけれども、似たような液状になってい

加湿器殺菌剤 16개 제품, 판매기간/성분 환경보건시민센터 (02-741-2700)

			
유공 가습기메이트 판매기간 1994~2001, MIT/CMIT	속시약학 가습기당번 판매기간 1998~2011, PHMG	매경 가습기메이트 판매기간 2002~2011, MIT/CMIT	롯데PB 와이클릭 가습기살균제 판매기간 2005~2011, PHMG
			
홈플러스PB 가습기정정제 판매기간 2003~2011, PHMG	세류 가습기살균제 판매기간 2009~2011, PGH	이마트PB 가습기살균제 판매기간 2006~2011, MIT/CMIT	코스트코 가습기클린업 판매기간 2008~2011, PHMG
			
GS PB 활박꽃음 가습기세정제 판매기간, MIT/CMIT	아토오가너 가습기살균제 판매기간 2009~2011, PGM	엔워드(알포정) 판매기간 2005~2011	다이소PB 산드레비 가습기피나제 판매기간, MIT/CMIT
			
아트세이프 가습기정정제 판매기간	원온나라 가습기살균제 판매기간, MIT/CMIT	LG 119 가습기세정제 판매기간 1997~2003, BKC	현월 홈키파 가습기(한편)액 판매기간 2007~2009, MIT/CMIT

写真2 韓国で販売されていた加湿器殺菌剤16製品

る、生活の中で使ういろいろな化学物質は多く売られています。これは世界的にもそうではないかと思えます。私たちの家の中で、居間で、トイレで、使っている化学製品が、子供を含めた多くの人たちを殺してきたということです。

これは、先程話した「氷山の一角だ」という絵ですね(図1)。400万人が使ったけれども、水の上に出ているのはわずかでしかないという絵です。400万人使って、50万の被害者がいるけれども、氷山の一角しか、我々には見えていない。

先程も説明した写真です(図2)。どのような健康被害が出ているかを示しています。皮膚や呼吸を通じて入ったものが、全身を巡って、症状を作るということは、医学的な常識だと思えますが、対象の疾病としては、肺といくつかに限られています。また、加害企業のいくつかから、基金を募って、企業基金という形で、疾病に対する補償を行っています。これも該当疾病が列挙されており、対応も遅いし、補償も遅れているという状況です。

何百万人も使用したと推察されるところから、医療記録ですね、病院のレセプトのデータを元に、疾病の疫学調査を行うという取り組みが行われています。

中国の方がいらっしゃるので、今、思い出しました。中国にも韓国人が住んでいます。たくさん住んでいますので、町のスーパーで、このような加湿器殺菌剤が売られて、使われたということが確認されています。

先程、日本の大阪で発売されている殺菌剤があったと言いましたが、その製品は今、北京

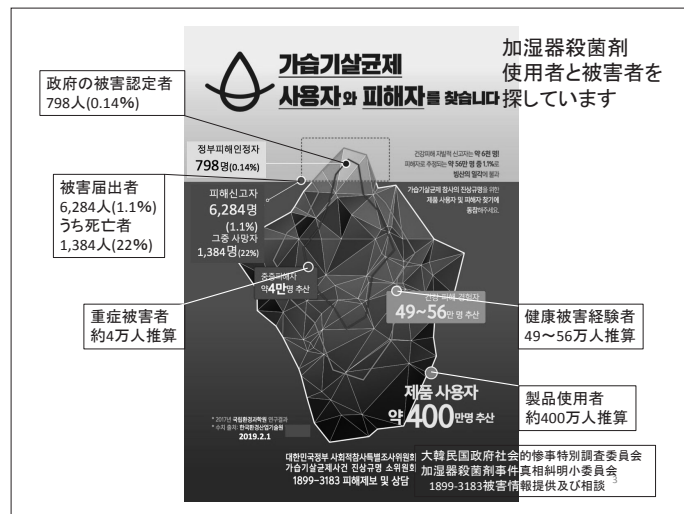


図1 加湿器殺菌剤惨事の構造を示した図



図2 何らかの救済が受けられる疾患の概念図

で売られています。

社会的惨事特別調査委員会の活動紹介

先程申しました私の所属する社会的惨事特別調査委員会というのは、政府機関です。120人規模で、1年間プラス1年間という活動期間が限定されています。セウォル号惨事というのは、船の沈没によって、高校生を中心に300人余の命が失われた惨事です。このセウォル号惨事と加湿器殺菌剤惨事の真相究明、被害対策、再発防止を行う委員会です。

加湿器殺菌剤の規模を考えた時、頭に浮かぶのは、日本の水俣病。それは第2次大戦直後の日本産業化の痛ましい失敗。もう1つはインドのボパール惨事であり、それは20世紀後半に、米国資本のグローバル化過程の凄惨な過ち。そして、韓国の加湿器殺菌剤惨事は、韓国産業化が21世紀に映したむごたらしい影と表現できると思います。

私が話をしたかったのは、このスライドなんですけれども、水俣病と加湿器殺菌剤の事件を段階ごとに区切ってみた場合、企業・政府・被害者に対するそれぞれの解決はどの程度かといった時に、似たような様相を呈しています。

そこで、私たちが水俣学研究センターに提案して、来週月曜日、水俣で、日韓のこの事件を比較検討するワークショップを持ちたいと思っています。

アジアの被害者ネットワーク化を進めよう

アジアのネットワークの必要性についてですが、政府間の協力はあります。国際機関として、WHOの話をしました。被害者のネットワークは、アスベストではできていますが、問題を被害者が解決するというネットワークは取り組まれていないと思います。

最後にANROEVを紹介して終わります。労災、および環境被害者の権利のためのアジアネットワークということで、20年余り前から、産業界における被害者、環境の被害者、運動家・専門家が集まって経験を分かち、交流する集まりをしてきました。

2年に1度の紹介を、今年は、9月20日前後に、3泊4日くらいの予定で、ソウルで行います。今日、参加された水俣の方、中国の方、参加していただければありがたいです。

参考文献

Yeyong Choi, Domyung Paek : Humidifier disinfectants, unfinished stories, Environmental Health and Toxicology, vol.31, 2016.